

○尋 ……さかのぼる

○初營仕…初めて官途についた頃のこと

154 ○追計…過去のことをおしはかる。

『漢語大詞典』には「盤算、思索以往的人或事」と説明し、柳宗元「送從弟謀歸江陵序」の「追計往時咎過、日夜反復、無一食而安於口、平於心」の用例を、また陸機「嘆逝賦序」の「昔每聞長老追計平生同時親故、或凋落已盡、或僅有存者」の用例を載せる。

○鑽堅…堅いものを切る。転じて深く学問すること。学徳などを仰ぎ慕うこと。

【類語】

▼鑽仰…聖人の道と徳とを探求し、仰ぎ見る意。後世学問などを慕い求め、努力して探求する意に用いる。

『論語』「子罕」に「顔淵喟然歎曰、仰之弥高、鑽之弥堅。(疏)言夫子之道高堅不可窮、蓋恍惚不可爲形象、故仰而求之則益高、鑽研求之則益堅」(口語訳「顔淵はため息をついて賛美しながら言った。仰ぎ見れば聖人(孔子)の道と徳はますます高く、その学問を研究すればするほどますます深くなる」)の一文を踏まえる語。

『漢語大詞典』には「鑽研艱深精妙的学問」と説明し、『晋書』「虞喜傳」の「博聞強識、鑽堅研微、有弗及之勤」の一文を引く。

155 ○正鵠…弓のまと。まとの中心。正は布を張って作り、中心に正を書き賓射に用いる。鵠は皮を張って作り、中心に鵠を書き大射に用いる。正・鵠は共に捷黠な鳥の名。一説に、正はただしい、鵠は直い意で、